

管外行政視察報告

悪臭問題特別委員会

5月17日・18日の2日間、長野県松本市の四賀有機センターと、栃木県茂木町の有機物リサイクルセンター美土里館の2施設を視察してきました。

松本市の四賀地区（旧四賀村）では、ゆうきの里「エコビレッジ四賀」を掲げ、環境にやさしい循環型社会の構築を目指して有機栽培の推進に取り組んでいます。この有機栽培を行う上で欠かせないのが、優良な有機肥料です。四賀有機センターでは、地区内の養鶏場から搬入される鶏糞を主な原料として肥料を製造し、その肥料は多くの農家で米や野菜の栽培に使用されています。

センターに導入されている攪拌装置はスクリー式のもので、自動で制御されることで効率よく有機物を攪拌し、その下から空気を送り込むという作業工程が無駄なく行われています。家畜糞尿の中でも臭気がきついとされる、鶏糞を原料とした肥料製造施設でありましたが、好気性発

酵が順調に進んでいることから、我慢できないようなにおいの発生は感じられませんでした。



自動攪拌装置のスクリー部分

茂木町では平成23年に「環境立町」を宣言し、美土里館を核とした環境保全型農業と循環型社会の構築を目指し、地域の未利用資源の堆肥化や、廃食油からBDF燃料を製造するリサイクルなど、自然の持つ循環システムを生かした仕組みづくりに力を入れています。

美土里館の肥料製造工程は、攪拌装置などを導入して機械化されているものの、やっていることは昔ながらの堆肥づくりと一緒とのこと

でした。ただ、特徴的なことは、町民（特に年配の方）が近くの山に入り、堆肥の副資材として使用する落ち葉を集め、それを町が買い上げていることです。美土里館では、その落ち葉と家庭から出た生ゴミなどを利用して堆肥を製造しています。

運営は赤字ではあるが、生ゴミの焼却費を抑えたり、年配の方は足腰が丈夫になって活動的であることなど、「赤字以上の効果が生まれている。」という副町長のお話がとても印象的でした。

この施設においても、スクリー式の自動攪拌装置が導入されていました。臭気は、原料が投入される部分で若干感じられるものの、発酵の段階ではほとんどありませんでした。



町民が集めた落ち葉、1袋20*。

市民委員を迎え意見交換

（議会基本条例検討委員会）

この度、議会基本条例検討委員会にて検討を進めてきた同条例の素案がまとまり、市民の方お二人を市民委員としてお迎えし、ご意見をお聞きすることにいたしました。今後、パブリックコメントを実施する等、市民の皆様にお知らせとご意見をいただく機会を設け、9月定例会に条例案を提出する予定です。



芸術文化協会との懇談会

（総務文教常任委員会）

新文化複合施設の建設にあたって、芸術文化協会からは会長始め副会長4名、総務文教常任委員会からは委員7名が出席して、5月15日に懇談会を開催しました。会議では、芸術文化協会の現状や新文化複合施設（市民ギャラリー）の建設について、意見交換が行われ、施設の早期建設について要望がなされました。



猿害対策に関する勉強会

（農林業振興議員連盟）

6月29日、農林業振興議員連盟で、猿害対策に関する勉強会を開催しました。有害鳥獣駆除に精通した方を講師にお迎えし、独自の手法と観察による被害対策などをお聞きしました。また、農業事業者の方々にも参加していただき、質疑応答を行いながら、問題意識の共有が図られました。



表彰

全国市議会議長会から、次の方が表彰されました。

●特別表彰状

（議員在職25年以上）
高橋 義和 議員

●感謝状

（地方財政委員会副委員長として）
佐藤 兎 議長



高橋義和 佐藤兎 議員